

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4290300070		
法人名	医療法人 済家会		
事業所名	グループホーム 長庚堂Ⅱ		
所在地	長崎県島原市弁天町一丁目7063番地		
自己評価作成日	平成28年 9月 5日	評価結果市町村受理日	平成28年11月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyoSvCd=4290300070-00&amp;PreCd=42&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyoSvCd=4290300070-00&amp;PreCd=42&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成 28 年 10月 18日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

母体法人の医療機関にて24時間体制での医療と介護の連携強化が図れているため、ご本人、ご家族様には大変、安心して頂いている。また法人の認知症患者センターとの連携もありアドバイスや指導も得られている。食事は管理栄養士のメニューにてバランスの摂れた食事を提供できている。施設の立地は商店街や公園が近く 散歩を兼ねての買い物もでき、木造平屋作りで天窓があり明るく、職員が家族の一員となり介護支援を行い家庭的な雰囲気のある生活の場である。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

開設6年目を迎え、「地域との触れ合いを大切にして、その人らしく、ゆったり、楽しく暮らせるように」の理念を、朝礼の時に唱和して、職員間で共有し、入居者は、自宅で生活している延長線と考え、家族のように、寄り添って介護実践を行なっている。地域の住民として町内会に加入し、神社の祭りや市民清掃(川掃除等)に職員が参加している。中学の福祉体験実施や、近所の方が自分の家に咲いた花やコーヒー・飴を持って遊びに来られ、日頃から地域と交流しているのが窺える。病院受診は、入所の時に説明をして、1ヶ月に2回法人の病院に往診してもらっている。定期検診やリハビリの時は、職員対応で受診している。家族の判断が必要な時は、同行してもらい、定期検診報告は口頭と電話で知らせ支援を行っている。母体法人の医療機関や、他職種と24時間体制の連携が図られていて、入居者・家族の安心に繋がっております期待の持てる事業所である。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名 1

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し優しい言葉かけで安心して穏やかに過ごして頂けるよう努めている	「地域との触れ合いを大切にして、その人らしく、ゆっくり、楽しく暮らせるように」の理念を、朝礼の時に唱和して、職員間で共有し、入居者は、自宅で生活している延長線と考え、家族のように、寄り添って介護実践を行なっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	祭りや催し物の案内等町内会から頂いている。また、ゴミの分別当番やし市民清掃にも参加し交流している	地域の住民として町内会に加入し、神社の祭りや市民清掃(川掃除等)には、職員が参加している。中学の福祉体験実施や、近所の方が自分の家に咲いた花やコーヒー・飴を持って遊びに来られ、日頃から地域と交流しているのが窺える。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福祉体験学習や運営推進会議に参加して頂いている町内会の方を通じ認知症の人への理解や支援方法を伝えている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	それぞれの立場からのご意見、アドバイスを頂きサービス向上に活かしている	年6回推進会議を行なわれ、地域包括・町内会長・民生委員・家族・入居者の参加があり、家族と入居者は殆ど参加がある。日々の生活内容・入居者の状態・イベントの報告などがあり、意見交換が出来ておりサービス向上に繋がっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所の実情報告をし、アドバイスを頂き協力関係を築くよう努めている	運営推進会議には、地域包括支援センターに参加してもらって意見交換ができており、GH島原連絡協議会主催の風船バレーボール大会に入居者が参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会や母体法人の勉強会で理解している。玄関の施錠を含めて身体拘束は一切行っていない	玄関はチャイムで対応し、基本的には身体拘束はしない方針である。転倒の危険がある為、家族の希望で2本柵を布団で外傷予防をしてされた。広域圏に報告し、1週間に1回話し合いをして、改善した事例があった。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会や勉強会により理解し防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会や母体法人の勉強会において学ぶことができ理解している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人、家族の思いや疑問点を伺い理解頂けるまで十分説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に状態報告を行い職員の対応や支援についての意見や要望を伺い運営に反映している	運営推進会議の時や、面会に来た時に意見や要望を聞くようにしている。事業所たよりや請求書と一緒に入居者の写真を入れて、入居者の状態を知らせ家族の安心に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議や朝の申し送り時に意見交換を行い運営に反映している	朝礼・スタッフ会議の時に職員の意見を聞いている。テレビのDVD・コピー機など稟議書を提出して、購入してもらっている。忘年会・歓迎会・送別会などを行い職員間の交流を図っている。希望で有休が取れるように配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	母体法人の総務で把握できており職場環境や条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体法人の総務で把握しており、法人内外の研修は受講できている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	島原半島グループホーム協議会の勉強会に於いて情報交換ができている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に面会し本人が困っていること不安なことを傾聴することで不安の軽減に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に家族の思いを伺い説明を行うことで不安の軽減や要望に応えられるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを密に行い最も必要としている支援を見極め他のサービスについても助言を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護者としてではなく、家族や暮らしを共にする仲間として接していけるよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に車椅子で近隣を散歩し絆を大切にされる。協力的な家族がおられよりよい関係が築けている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	高齢になり友人の面会も途切れていく中、入所以来友人の面会を何より楽しみにされている入所者様がおられ今でも継続している	友達が遊びに来られた時は、お茶を出して居室でゆっくり話ができるように支援している。入居者の希望で、お寺参り・法事・買い物や商店街・スーパーに、職員対応で連れていかれ馴染みの人と場所の関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員同様に入居者様のことを気にかけて言葉かけをしてくださる方もおられるが、性格的にどうしても交われない方もいらっしゃる		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されている場合、面会に行き経過を見ながら家族からの相談にも対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話の中から本にの思いを察し職員間で共有することで意向にそうよう努めている	利用者の体調やメンタル面が不安定な時は、状態を見て察知し、隣接しているグループホームへ遊びに行ったり、散歩・ドライブに連れて行って納得してもらうように支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族とのアセスメントやケア・マネージャー等関係者からの情報提供により把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、朝・夕の申し送りにより情報交換し現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の状態を個人記録により把握し職員間で共有している。また、家族の面会時に状態説明を行い、その思いを伺っている現状に即した介護がなされるよう話し合い計画書の再確認を行っている	アセスメントを担当者が行い、月1回のスタッフ会議の時、職員間で話し合い介護計画を立てている。家族・本人に説明して、入居者の現状に即した介護計画を作成し実践しているが、個人の記録を詳しく書き介護計画が立てやすいようにする事を期待したい。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録により日々の状態変化等の情報を共有し介護計画を再確認することで実践や見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自宅への外出、外泊時の送迎や外食等、希望があれば可能な限り行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市や町内会からの情報紙を掲示し希望があれば随時対応している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体病院からの月2回の往診や定期検査及び眼科、皮膚科の受診の支援も行っている。初診の際は、家族に同行してもらっている	入所の時に説明をして、1ヶ月に2回法人の病院より往診をしてもらっている。定期検診やリハビリの時は、職員対応で受診している。家族の判断が必要な時は、同行してもらい、定期検診報告は口頭と電話で知らせ支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体病院からの定期的な訪問看護及び異常時の相談、助言等連携を図っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人、家族の意向を尊重し早期退院に向けて病院関係者との連携を図っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化し医療が必要となった時は担当医、家族と相談しながら支援していく。終末期のあり方については、入所時に本人、家族に説明し確認している	入所の時に終末期のあり方について説明している。緊急対応マニュアルがあり、重度化した時の対応の仕方についての勉強会は行っている。状態変化等があった場合は、医師や管理者兼看護師が判断して、家族へ説明し入院してもらうように対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署立ち合いの応急手当や救急蘇生法の訓練を全職員受けておりマニュアルにそって対応するよう周知している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	消防署立ち合いの昼・夜を想定とした避難訓練を実施しており全職員周知している。また、地域の消防団の方にも参加して頂き施設内部や入所者様の状態を確認して頂き地域との協力体制もとれている	隣接している同法人のグループホームと合同で、屋の地震火災を想定し消防署立ち合いで避難訓練を実施している。地域の消防団の参加協力があった。地震・台風・水害のマニュアルは作成されている。	地震・台風・水害のマニュアルは作成されているが、職員の内容把握は十分ではないので、全職員が内容を把握し共有することを期待したい。災害時の備蓄品は準備し、様式に記録されていたが、見やすいように、様式変更をして、消費期限を書きスペースを作成する事を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導や排泄で失敗されて時の言葉かけでは、本人のぷらいどを傷つけないよう特に注意を払っている	法人の接遇マナー研修会に参加している(欠席の職員はビデオを見て感想を書いている)。言葉掛けをする時は、入居者の性格を判断して、敬語を嫌われる方は、方言を使いながら、一人ひとりの人格を尊重し、親しみを持った話し掛けをして対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃からのコミュニケーションを図り、本人の思いを把握するよう心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースで思いおもいに過ごされているレクリエーションも楽しんで参加される方、そうでない方がおられ無理強いはしていない		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた服を相談しながら本人に選んでもらっている。訪問美容師さんに本人希望の髪型を伝えてカットしてもらっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食堂兼居間と調理場所が同じ空間にあり会話しながら食事の準備ができています。調理の下ごしらえと一緒に手伝ってもらうこともあり食事を楽しみにされている	年2~3回、嗜好調査行い、トロミ食・刻み食・御粥など状態に応じて提供している。誕生会・敬老会・風船バレー大会等は、お弁当を準備され、また、初市・花見の後に外食を楽しまれる。食事の後片付けを手伝って貰うこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作成した献立表に基き調理を行っている水分補給は、決められた時間以外にも本人の状態や季節に応じて随時行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、見守りや介助により口腔ケアを行っている。夜間は、毎日義歯消毒を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の時間の把握に努め、声掛け、トイレ誘導を行っているが尿意、便意が分からなく立位困難のためトイレでの排泄介助が難しい方が一人おられる	排泄チェック表を付けて、一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛けして支援を行なっている。昼間はトイレで排泄し、夜間、誘導の厳しい方は、ポータブルトイレで対応し、状態に応じて排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表により排便の有無を把握し、その人に応じて運動や腹部マッサージ、水分補給等を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日以外でも状況に応じてシャワー浴等柔軟に対応している。冬場のゆず湯は、楽しみにされている	週2~3回、朝から入浴されているが必要に応じていつでもシャワー浴などができる。お湯の温度は、季節に応じて温度を調節している。立位が困難な方は、車イス対応のチェアで状況に合わせて2人対応で危険のないように入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ベッドに横になりテレビを観ながら眠っておられたり、その人のペースで自由に休んで頂いている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	いつでも確認できるように薬の説明書を個人記録に添付している。服薬マニュアルにそって服用して頂いている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理の下ごしらえやテーブル拭き等、その人の力に応じて手伝って頂いている。誕生会や季節の行事も楽しんで頂けるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	花見やソーメン流し等季節を感じて頂けるよう本人の希望を伺い出かけている。面会時は、家族と車椅子で近隣を散歩されることもあり協力を得ている	天気の良い日は、本人の希望で、定期検診・リハビリ等の通院の後、アーケードで、買い物をしたり、近くの公園や、鯉を見に出かけ外出を楽しめるように支援を行なっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族からの預かり金以外に自分で少額の現金を所持しておられる方もいらっしゃる。移動販売のパンや外出時にお菓子等自分で選んで購入されている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも自由に電話をかけて頂ける。また、ご家族からの電話を毎週楽しみに待っておられる方もいらっしゃる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設の中央に位置している天窓のある明るい食堂は、会話やテレビを楽しむ場所であり傍らで職員が調理やおやつ準備を行う家庭的な安心できる場所となっている	玄関から入るとバリアフリーになっており、靴箱の上には観葉植物が飾られ、事務所は、誰が来たかすぐ分かるようになっている。台所兼居間は明るく窓からの風が心地良く感じられた。ボードには、今日の体操や献立が書いてあり、入居者に分かり易いように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った人同士で会話が弾んだり窓際で居眠りされたり、それぞれ自由に過ごされている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた家具を配置し家族写真や好みの絵を掲示し本人が安心して過ごされるよう工夫している	居室の入口には、表札として入居者の写真を掲げ部屋が分かりやすいように配慮してある。整理ダンス・テーブル・座イス・カレンダー・テレビ等馴染みの物を持ち込んで居心地の良い部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーとなっておりシルバーカー歩行や車椅子でも安全に移動できる。また、居室やトイレ、浴室にはブザーが設置されており困った時は知らせることができる		